

## 日本地球掘削科学コンソーシアム 2020年度定例総会

開催日時:2020年5月19日(火)14:00~17:00

URL: <https://us02web.zoom.us/j/984726597>

### 議事次第(案)

1. 会議成立の確認
2. ウェブ会議の進め方説明
3. 議長選任
4. 議事次第(案)確認・承認
5. 2019年度活動報告
  - (1) 理事会活動報告(会長) .....資料1
  - (2) IODP部会活動報告(IODP部会長) .....資料2
  - (3) ICDP部会活動報告(ICDP部会長) .....資料3
6. 2019年度決算報告・監査報告(財務担当理事・監事) .....資料4
7. 役員選挙規則に係る審議 .....資料5
8. 2020年度執行体制報告 .....資料6
9. 2020年度活動方針案審議
  - (1) J-DESC活動方針案(会長) .....資料7
  - (2) IODP部会活動方針案(IODP部会長) .....資料8
  - (3) ICDP部会活動方針案(ICDP部会長) .....資料9
10. 2020年度予算案審議 .....資料10
11. その他
  - (1) J-DESC会員機関現状報告 .....資料11
  - (2) その他
12. 議長解任
13. 会長挨拶

### 配布資料

- |     |                  |      |                        |
|-----|------------------|------|------------------------|
| 資料1 | 理事会2019年度活動報告    | 資料7  | J-DESC2020年度活動方針案      |
| 資料2 | IODP部会2019年度活動報告 | 資料8  | IODP部会2020年度活動方針案      |
| 資料3 | ICDP部会2019年度活動報告 | 資料9  | ICDP部会2020年度活動方針案      |
| 資料4 | 2019年度収支決算書・監査報告 | 資料10 | 2020年度予算案              |
| 資料5 | 役員選挙規則案          | 資料11 | J-DESC会員リスト(2020年5月時点) |
| 資料6 | 2020年度執行体制       |      |                        |

2020 年 5 月 19 日

## 日本地球掘削科学コンソーシアム

## 理事会 2019 年度活動報告

理事会

2019 年度の理事会の活動概要について、下記の通りご報告いたします。

理事会の活動の推進	
<p>(活動概要) 定期的に理事会を開催し、組織運営、対外活動、研究推進、広報教育などの重要事項を審議・決定した。IODP・ICDP 両部会と連携して決定事項を遂行した。</p>	
理事会の開催状況	
第 1 回：2019 年 7 月 5 日	臨時：2020 年 4 月 9 日
第 2 回：2019 年 8 月 21 日	第 7 回：2020 年 4 月 20 日
第 3 回：2019 年 10 月 31 日	
第 4 回：2019 年 12 月 19 日	
第 5 回：2020 年 2 月 10 日	
第 6 回：2020 年 3 月 11 日	
備考：対面・Web 会議を交え、1～2 時間開催	
総務	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・理事会の各会務の連携、および IODP・ICDP 両部会との情報共有により、安定的・効率的な組織運営を行った。</li> <li>・組織の改革・最適化を行うため、各種規程・規則を整備した。</li> <li>・ウェブサイト、メールニュース等を通じて会員への各種情報提供を行った。</li> </ul> <p>&lt;今後の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理事会と両部会執行委員会との効率的な分担</li> <li>・会員数の減少への対策</li> </ul>	
科学戦略	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Post-2023 Science Framework の策定に向け、国内意見の集約、IODP Forum への提案、執筆者の推薦等を行い、日本の貢献度を高めた。</li> <li>・日本発の新規掘削提案の提出促進と新たな科学アイデアの募集・育成を目的としたワークショップを開催した (IODP 掘削提案促進ワークショップ、1 月 20-21 日開催)。</li> </ul>	

- ・日本地球惑星科学連合 2019 年大会で「地球掘削科学」セッションを開催し、2020 年大会のセッション提案を行った。

<今後の課題>

- ・ワークショップの周知時間が短くコミュニティの関与が十分ではなかった。

財務

- ・2019 年度予算を執行し、決算報告を行った。J-DESC の財政及び活動方針を踏まえ、適切な予算案策定を行った。
- ・会員提案型活動経費の提案課題の募集・審査・採択を行い、効果的な経費配分を行った。
- ・Web 会議の導入により効果的な経費節減を行った。

<今後の課題>

- ・収入減少への対応策の検討

外務

- ・IODP 及び ICDP 関連の国際会議、ワークショップ等に J-DESC 役員や国内研究者を派遣し、積極的な対外活動を行うとともに、収集した各種情報を研究コミュニティへ展開した。
- ・タウンホールミーティングや各種集会の開催により、国内外コミュニティの交流・連携促進等を行った。
- ・ICDP への日本の加盟を継続する MOU 更新をコミュニティの要望として関係機関に働きかけ、更新を実現した。
- ・IODP Code of Conduct (ハラスメントポリシー) 策定へ貢献した。

<今後の課題>

- ・国内外の情勢変化を分析し、積極的・効果的なコミュニティへの情報展開を図る。

広報・教育

- ・会員機関が提供する研究教育プログラムを大学が単位として認定する仕組みを整備し、会員大学に周知した。
- ・スクールやワークショップ等の開催により若手育成・研究コミュニティの底辺拡大に努めた。
- ・学会等でのブース展示、講師派遣、各種出版物の配布などの広報活動を継続的に展開した。

<今後の課題>

- ・IODP・ICDP 両部会との連携を深め、効果的な役割分担を行う。
- ・より積極的に新たな広報活動を展開する。

2020 年 5 月 19 日

## 日本地球掘削科学コンソーシアム

## IODP 部会 2019 年度活動報告

IODP 部会執行委員会

2019 年度の IODP 部会の活動概要について、下記の通りご報告いたします。

部会活動の推進
IODP 部会執行委員会の活動
(活動概要) IODP 部会規約に従い、必要に応じて執行委員会を適宜開催し、重要事項の検討を行い、理事会に報告した。
執行委員会の開催状況
第 1 回：2019 年 10 月 7 日
第 2 回：2020 年 4 月 17 日
専門部会等
委員会名：掘削航海専門部会
<ul style="list-style-type: none"> <li>・IODP 掘削航海の J-DESC 乗船応募者の評価をメールベースで行った。2019 年度の航海および応募者・乗船者一覧は別表 1 参照</li> <li>・国内の乗船応募者を増やすための促進策をまとめ、理事会に提言した。</li> </ul>
委員会名：科学推進専門部会
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本発の IODP 掘削提案 (Proposal) を支援する取り組みとして、従来、IODP へ提出された後の掘削提案に助言を行っていた従来の J-watch 体制を見直し、提出前の掘削提案に SEP 経験者等をレビュアーとして割り振り助言・強化を行う新 J-watch 体制の運用を開始した (本年度実績 2 件)。</li> <li>・IODP 掘削提案促進ワークショップ (1 月 20-21 日) において、「将来の掘削提案に向けたアイデア紹介」セッションの内容を検討し理事会に提言した。</li> <li>・IODP Science Evaluation Panel の候補者リストを更新し、SEP 委員選定を支援した。</li> <li>・「ちきゅう」を用いた表層科学掘削プログラム (SCORE) における教育乗船枠の導入検討を理事会に提言した。</li> <li>・SCORE 掘削提案 5 件の評価を行った。</li> </ul>
科学戦略関連
掘削科学の活性化に資する活動
<ul style="list-style-type: none"> <li>・掘削提案書作成支援・アイデア創出の一環として、理事会および科学推進専門部会と</li> </ul>

<p>協力し、IODP 掘削提案促進ワークショップを開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門部会を活用し、掘削提案の実現支援や航海への参加促進を進めた（前述）。</li> <li>・ ICDP 部会と協力し、国内学会（JpGU 2019）へのブース出展において、掘削科学に関するコミュニティからの質問・相談窓口を設置し、交代で対応した。</li> <li>・ 大型研究マスタープラン 2020 へ掘削科学と周辺他分野を融合した研究計画の取りまとめと提案を実施した。</li> </ul>
<p>集会・シンポジウム後援・開催等</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ IODP 掘削提案促進ワークショップ開催（前述）</li> <li>・ 日本地球惑星科学連合 2019 年大会で「地球掘削科学」セッションを開催</li> <li>・ 日本地球惑星科学連合 2020 年大会のセッション提案</li> </ul>
<p>財務関連</p>
<p>年度予算の策定・運用</p>
<p>IODP 部会の活動予定を踏まえ、適切な年度予算を策定し、限られた予算の効果的な運用を行った。</p>
<p>会員提案型活動経費の運用</p>
<p>会員提案型活動経費をより効果的に配分できるよう、提案課題の募集・選定・採択のプロセスを見直し、応募 4 件中 2 件を採択し支援を行った。</p>
<p>外務関連</p>
<p>IODP に関わる対外的な活動および支援</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SEP、EPSP 等のパネル委員の公募、推薦を行った。</li> <li>・ EPSP (Environmental Protection &amp; Safety Panel)、SEP (Science Evaluation Panel)、JOIDES Resolution Facility Board、IODP Forum の 4 種類の IODP 国際会議に対して委員・オブザーバー等を派遣した（旅費は海洋研究開発機構が負担）。</li> </ul> <p>会議開催及び派遣実績は別表 2 を参照</p>
<p>国内外コミュニティの交流・連携促進</p>
<p>理事会及び陸上部会と協力し、J-DESC タウンホールミーティング 2019 を開催した。</p>
<p>広報・教育関連</p>
<p>新規活動の創出・企画の検討</p>
<p>広報教育担当理事を中心とするワーキンググループにおいて、会員機関の相互連携による単位認定制度の検討を行い、案内開始した。</p>
<p>学会等における広報活動</p>
<p>理事会及び陸上部会と協力し、以下の学会等で活動を行った。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本地球惑星科学連合 2019 年大会にて合同展示ブースを出展</li> <li>・日本地質学会第 126 年学術大会（山口大会）にて合同展示ブースを出展・ランチョンミーティングを開催</li> <li>・日本地震学会 2019 年度秋季大会（京都）にて合同展示ブースを出展</li> </ul>
若手育成・研究コミュニティの底辺拡大
<ul style="list-style-type: none"> <li>・J-DESC コアスクール（微化石コース、ロギング基礎コース）の開催及び参加する会員学生へ旅費補助を行った。</li> <li>・高知国際コアスクール（Kochi Core School 2019）の開催支援及び参加する会員学生へ旅費補助申請受付を行った（応募がなかったため補助実績なし）。</li> </ul>
出版物等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・J-DESC Newsletter vol. 12（日本語）電子版発行</li> <li>・J-DESC Newsletter vol. 13（日本語）電子版の発行に向けた原稿準備</li> <li>・J-DESC リーフレットの発行</li> </ul>
その他普及活動・アウトリーチ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・メールニュース「J-DESC Update」による各種最新情報の提供</li> <li>・J-DESC ホームページ及び Facebook ページの効果的活用</li> <li>・関係機関によるプレスリリースへの協力及び推進</li> </ul>

## 2019年度 IODP 掘削航海対応実績

## 2019年度に実施した IODP 掘削航海

#	航海名	プロポーザル	実施(予定)期間	出港/入港	乗船者/ 応募者	備考
<b>JOIDES Resolution (JRSO)</b>						
382	Iceberg Alley and Subantarctic Ice and Ocean Dynamics	902 Full, 902 Add, 902 Add2, 846 APL2, & 846 Add	2019/3/20~5/20	Punta Arenas to Punta Arenas, Chile	3名/3名	
383	Dynamics of Pacific Antarctic Circumpolar Current	912 Full & 912 Add	2019/5/20~7/20	Punta Arenas to Punta Arenas, Chile	2名/2名	
385	Guaymas Basin Tectonics and Biosphere	833 Full2 & 833 Add	2019/9/16~11/16	San Diego to San Diego, California	3名/3名	
378	South Pacific Paleogene Climate	567 Full4	2020 1/3~ <del>3/4</del> 2/6	Lautoka, Fiji to Papeete, Tahiti	2名/3名	直前の故障により航海期間短縮。 1名乗船辞退

## 2019年度に乗船応募者評価・推薦を行った IODP 掘削航海

#	航海名	プロポーザル	実施(予定)期間	出港/入港	乗船者/ 応募者	備考
<b>JOIDES Resolution (JRSO)</b>						
387	Amazon Margin	859-Full2, 859-PRL, & 859-Add2	<del>2020/4/26~6/26</del> postponed	TBD	3名/4名	航海延期
388	Equatorial Atlantic Gateway	864-Full2 & 864-Add	<del>2020/6/26~8/26</del> postponed	TBD	3名/4名	航海延期
390	South Atlantic Transect 1	853-Full2 & 853-Add	2020/10/5~12/5	Rio de Janeiro, Brazil to Cape Town, South Africa	2名/5名	390 と 393 の Joint science program
393	South Atlantic Transect 2	853-Full2 & 853-Add	2021/4/6~6/6	Cape Town, South Africa to Rio de Janeiro, Brazil	2名/3名	



395	Reykjanes Mantle Convection and climate	892-Full2 & 892-Add	2020 6/26~8/26	Reykjavik to Reykjavik, Iceland	1名/1名	388 乗船決定者のうち1名が再応募
391	Walvis Ridge Hotspot	890-Full2 & 890-Add	2020/12/5~2021/2/4	Cape Town to Cape Town, South Africa	2名/3名	
392	Agulhas Plateau Cretaceous Climate	834-Full2 & 834-Add	2021/2/4~4/6	Cape Town to Cape Town, South Africa	2名/5名 1名/1名 (追加募集)	分野限定追加募集

**Mission Specific Platform (ESO)**

386	Japan Trench Paleoseismology	835-Full & 866-Full	<del>2020/4/25~6/15</del> postponed	TBD	Co-chief 1名 7名/9名 1名/1名 (追加募集) 0名/1名 (追加募集)	1名が乗船辞退、分野限定の追加募集 2度、乗船者のうち 6名は on shore のみ
-----	------------------------------	---------------------	--	-----	--	---

## IODP関連国際会議 2019年度開催実績及び派遣者

会議名称	開催日	会場	派遣者
EPSP (Environmental Protection & Safety Panel)	2019年9月4-6日	テキサス A&M 大学 米国・カレッジ・ステーション	朴 進午 (パネル・東京大学)
CIB (Chikyu IODP Board)	2019年6月11-12日	神戸大学瀧川記念学術交流会館 日本・神戸	木村 学 (J-DESC会長・東京海洋大学) 益田 晴恵 (IODP部会長・大阪市立大学)
SEP (Science Evaluation Panel)	2019年6月25-27日	Edinburgh Centre for Carbon Innovation (ECCI) 英国・エディンバラ	成瀬 元 (パネル・京都大学) 戸丸 仁 (パネル・千葉大学) 黒田 潤一郎 (パネル・東京大学) 岡崎 裕典 (パネル・九州大学) 川村 喜一郎 (パネル・山口大学) 浜田 盛久 (パネル・JAMSTEC) 杉岡 裕子 (パネル・神戸大学)
	2020年1月7-9日	スクリプス海洋研究所 米国・サンディエゴ	黒田 潤一郎 (パネル・東京大学) 戸丸 仁 (パネル・千葉大学) 川村 喜一郎 (パネル・山口大学) 浜田 盛久 (パネル・JAMSTEC) 杉岡 裕子 (パネル・神戸大学) 橋本 善孝 (パネル・高知大学) 松崎 賢史 (パネル・東京大学)
JOIDES Resolution Facility Board	2019年5月8-9日	The Curtis Denver Hotel 米国・デンバー	益田 晴恵 (IODP部会長・大阪市立大学)
IODP Forum Meeting & PMO Meeting	2019年9月11-14日	大阪国際会議場 (グランキューブ大阪) 日本・大阪	木村 学 (J-DESC会長・東京海洋大学) 益田 晴恵 (IODP部会長・大阪市立大学) 小村 健太郎 (ICDP部会長・防災科学技術研究所) 木下 正高 (外務担当理事・東京大学地震研究所) 黒田 潤一郎 (*STCOM・東京大学) 道林 克禎 (*STCOM・名古屋大学) 氏家 恒太郎 (*STCOM・筑波大学) 秋澤 紀克 (*STCOM・東京大学)
ECORD Facility board	2020年3月24-25日	Hotel Aquabella フランス・エクスアンブロヴァンヌ	延期となったため今年度派遣実績なし

\*STCOM…次期サイエンスプラン立案に向け、J-DESC内で組織されたワーキンググループ

2020年5月19日

日本地球掘削科学コンソーシアム  
ICDP 部会2019年度活動報告

ICDP 部会執行委員会

2019年度のICDP部会の活動概要について、下記の通りご報告いたします。

執行委員会の開催
<p>・ICDP部会執行委員会を以下の通り開催した。 第1回：2019年8月8日 第2回：2019年12月2日 第3回：2020年4月14日</p> <p>・新体制への移行にともない、理事会と連携しつつ、ICDP掘削プロジェクトの支援、国内研究推進、普及・教育等の重要事項を検討・立案・実施し、理事会に報告した。</p>
科学戦略関連
掘削科学の活性化に資する活動
<p>・日本発のICDPプロジェクト実現に向け、琵琶湖掘削、BASE(Barberton Archean Surface Environments)、DSeis等、情報交流、支援の検討を行った。</p> <p>・次期ICDPサイエンスプランの動向に注視し、ICDP ECを通じて、提言を行った。</p> <p>・広くICDPプロジェクト、陸上科学掘削プロジェクト、国際ワークショップ、ICDPトレーニングコースへの日本在籍研究者参加を呼びかけた。</p> <p>・日本在籍研究者のICDP関連成果の取りまとめを進めた。</p> <p>&lt;今後の課題&gt; 日本発のICDPプロジェクトの提案促進に向けたさらなる戦略的取り組みが必要である。</p>
集会・シンポジウム後援・開催等
<p>・IODP部会と連携し、J-DESCワークショップ「Scientific Ocean Drilling beyond 2023 科学掘削の未来：2023年からその先へ」を実施した。</p> <p>・IODP部会と連携し、日本地球惑星科学連合2019年大会にて「地球掘削科学」セッションを開催した。</p> <p>・J-DESCワークショップ「IODP 掘削提案促進ワークショップ」の開催について情報共有した。</p> <p>&lt;今後の課題&gt; ICDP部会主導のシンポジウム・ワークショップ等を積極的に企画する。</p>

財務関連
年度予算の策定・運用
・ICDP部会の活動予定を踏まえ、適切な年度予算を策定し、限られた予算の効果的な運用を行った。
会員提案型活動経費の運用
・理事会における会員提案型活動経費のプロセスの見直しに協力した。 <今後の課題> ICDP関連の会員提案型活動の提案を活性化する。
外務関連
ICDP に関わる対外的な活動および支援
・ICDPのAssembly of Governors (AOG), Executive Committee (EC), Science Advisory Group (SAG)の各会議へ出席し、ICDPの国際情勢について会員とのタイムリーな情報共有を目指した。 ・ICDP参画のMOU更新に向け、JAMSTEC宛要望書、日本の関与するICDPプロジェクト一覧、日本の関与するICDPプロジェクト見込一覧をJAMSTEC理事長に提出した。結果、今年度4月に遡って、3年間のMOUが締結された。 ・SAGメンバーとして新たな日本からの候補者を推薦し、採用された。
国内外コミュニティの交流・連携促進
・IODP部会とともに、J-DESCタウンホールミーティング2019を開催した。
広報・教育関連
新規活動の創出・企画の検討
・会員機関の相互連携による研究教育資源の有効活用を検討し、それに基づく大学間の単位認定制度の制度設計に協力した。 <今後の課題> 大学以外の研究機関等の単位認定制度への関わりについてさらに検討が必要である。
学会等における広報活動
・日本地球惑星科学連合2019年大会にて合同展示ブースを出展した。 ・日本地質学会第126年学術大会（山口大会）にて合同展示ブースを出展した。 ・日本地震学会2018年年度秋季大会（京都）にて合同展示ブースを出展した。
若手育成・研究コミュニティの底辺拡大
・J-DESCコアスクール（岩石記載技術コース）を検討した。 ・ICDPトレーニングコースに1名が参加した。その他、海外コアスクールや国際研究集会等の情報を提供し、参加を促した。

<p>・J-DESCワークショップにおける若手参加を支援した。</p> <p>&lt;今後の課題&gt;</p> <p>陸上掘削及びICDPをより若手に知ってもらうための方策の検討</p>
出版物等
<p>・J-DESC Newsletter vol. 12（日本語）電子版を発行した（2019年5月）。</p> <p>・J-DESC Newsletter vol. 13（日本語）電子版の原稿準備した。</p> <p>・J-DESCリーフレットの発行を検討した。</p>
その他普及活動・アウトリーチ
<p>・メールニュース「J-DESC Update」による各種最新情報を提供した。</p> <p>・J-DESCホームページ及びFacebookページの効果的活用を図った。</p> <p>・関係機関によるプレスリリースへの協力及び推進した。</p>

## 貸借対照表

2020年 3月31日現在

日本地球掘削科学コンソーシアム

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	9,808,476	9,070,497	737,979
ゆうちょ銀行振替口座	4,561,930	821,032	3,740,898
三菱UFJ/大塚	5,246,546	8,249,465	-3,002,919
未収金	80,588	0	80,588
流動資産合計	9,889,064	9,070,497	818,567
資産合計	9,889,064	9,070,497	818,567
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,124	574,639	-573,515
流動負債合計	1,124	574,639	-573,515
負債合計	1,124	574,639	-573,515
III 正味財産の部			
正味財産合計	9,887,940	8,495,858	1,392,082
負債及び正味財産合計	9,889,064	9,070,497	818,567

日本地球掘削科学コンソーシアムの2019年度決算書類を監査した結果  
その処理は適正であったことをここに報告します。

2020年4月23日

監事

川橋 穂高



監事

# 貸借対照表

2020年 3月31日現在

日本地球掘削科学コンソーシアム

(単位:円)


科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	9,808,476	9,070,497	737,979
ゆうちょ銀行振替口座	4,561,930	821,032	3,740,898
三菱UFJ/大塚	5,246,546	8,249,465	-3,002,919
未収金	80,588	0	80,588
流動資産合計	9,889,064	9,070,497	818,567
資産合計	9,889,064	9,070,497	818,567
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,124	574,639	-573,515
流動負債合計	1,124	574,639	-573,515
負債合計	1,124	574,639	-573,515
III 正味財産の部			
正味財産合計	9,887,940	8,495,858	1,392,082
負債及び正味財産合計	9,889,064	9,070,497	818,567

日本地球掘削科学コンソーシアムの2019年度決算書類を監査した結果  
その処理は適正であったことをここに報告します。

2020年4月23日

監事

監事

 森下 知晃 

# 収支計算書

2019年 4月 1日から2020年 3月31日まで

日本地球掘削科学コンソーシアム

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
<b>【収入の部】</b>				
年会費	4,174,000	4,231,000	-57,000	
正会員	3,050,000	3,010,000	40,000	
正会員 A	2,300,000	2,200,000	100,000	会費納入率95.7%
正会員 B	750,000	810,000	-60,000	会費納入率 100%
個人会員	24,000	21,000	3,000	会費納入率85.7%
賛助会員	1,100,000	1,200,000	-100,000	会費納入率 100%
雑収入	0	59	-59	
収入計	4,174,000	4,231,059	-57,059	
<b>【支出の部】</b>				
共通経費	3,592,312	2,176,147	1,416,165	
会員提案型活動経費	300,000	155,385	144,615	
広報活動費	684,012	615,345	68,667	
コアスクール開催費	1,255,000	516,357	738,643	
会議開催費	198,300	50,760	147,540	
通信費	30,000	8,634	21,366	
雑費	70,000	64,568	5,432	残高証明、振込手数料等
事務局業務委託費	525,000	498,144	26,856	
事務局会計業務費	30,000	25,040	4,960	
掘削科学計画・提案支援費	500,000	241,914	258,086	
理事会活動経費	510,000	354,798	155,202	
理事会活動経費	500,000	341,950	158,050	交通費
雑費	10,000	12,848	-2,848	振込手数料
I O D P 部会経費	390,000	162,390	227,610	
執行委員会活動経費	360,000	157,580	202,420	交通費
雑費	30,000	4,810	25,190	振込手数料
I C D P 部会経費	270,000	145,642	124,358	
執行委員会活動経費	260,000	139,240	120,760	交通費
雑費	10,000	6,402	3,598	振込手数料
支出計	4,762,312	2,838,977	1,923,335	
当期収支差額	-588,312	1,392,082	-1,980,394	
前期繰越収支差額	8,495,858	8,495,858	0	
次期繰越収支差額	7,907,546	9,887,940	-1,980,394	



# 財産目録

2020年 3月31日現在

日本地球掘削科学コンソーシアム

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)	預金	ゆうちょ銀行振替口座 三菱UFJ/大塚		4,561,930
				5,246,546
	未収金			80,588
流動資産合計				9,889,064
資産合計				9,889,064
(流動負債)				
	未払金			1,124
流動負債合計				1,124
負債合計				1,124
正味財産				9,887,940

## 日本地球掘削科学コンソーシアム役員選挙規則（案）

第1条 日本地球掘削科学コンソーシアム規約第14条及び第15条に定める役員を選出は、本規則により行う。

第2条 会長、部会長、理事及び監事は、原則として正会員の無記名投票による選挙によって選出する。ただし、以下の各号に掲げる場合は、会員総会での議決をもって選挙に代えることができる。

- (1) 立候補受付期間中に候補者が定数に満たなかった場合
- (2) 役員が任期中に退任し、その後任者を選出する場合
- (3) 選挙に対する異議申し立てが行われ、かつ当該案件が解決されず、再選出が必要となった場合
- (4) 上記の他、役員を選出に緊急を要すると理事会において認められた場合

第3条 選挙にあたっては、下記のとおり選挙管理委員会を設ける。

- (1) 選挙管理委員会は、正会員団体所属者の中から選任された4名の選挙管理委員によって構成する。
- (2) 選挙管理委員会の定足数は、委員長を含む過半数とする。ただし、ウェブ会議システム等を用いた遠隔からの参加を含む。
- (3) 選挙管理委員会は、電子メールその他の電磁的方法により案件の審議を行うことができる。その場合は、委員の全員が同意の意思表示をしたときに、その案件を可決する旨の決定があったものとみなす。
- (4) 選挙管理委員は、J-DESC 会長、IODP 部会長、ICDP 部会長が相談のうえ、正会員団体所属者の中から4名を選任し、理事会の承認を得るものとする。また、委員長は委員の互選で選ぶものとする。
- (5) 選挙管理委員から役員候補者が出た場合は、委員を交代することとする。
- (6) 選挙管理委員会~~会~~の任期は、役員選挙が終了し、その結果について会員総会に報告するまでとする。
- ~~(7) 本規則に定めのない事態が起きた場合は、理事会にて対応案を策定し、会員総会にて議決する。→第12条に移動~~

変更理由：選挙管理委員会の定足数および電子メールでの決議が可能かどうか  
が不明との指摘があったため、追記

第4条 開票は、下記のとおり開票立会人を置く。

- (1) 開票立会人は、正会員団体所属者のうち役員、役員候補者及び選挙管理委員を除いた者の中から2名を選挙管理委員会が選任する。
- (2) 開票立会人は、選挙管理委員会の行う開票作業に、終始1名以上が立ち会い、開票及び票の効力判定を注意深く見守り、疑義が生じたときは、ただちに選挙管理委員会に申し出て、疑義の解消をはかる。
- (3) 開票立会人は、自ら開票作業を行わないこととする。

第5条 選挙の方法は下記のとおりとする。

- (1) 選挙の方法は、正会員による無記名投票により行う。~~無記名投票は、所定の投票用紙と封筒を用い、定められた期間内に、郵送により行う。~~  
→第8条に移動
- (2) 投票権は、正会員1団体につき1個とし、立候補受け付け開始日の前日までに、正会員として入会が認められ、その旨登録された団体が有する。
- (3) 各役員選挙において、候補者数が定数を超えない場合には、無投票当選とする。
- (4) 理事選挙において、可能な場合は必ず最大定数である11名の当選者を決めることとする。
- (5) 理事選挙において、最大定数を超えて同数得票者が発生した場合は、当選者が少ないジェンダーの候補者、生年の若い候補者、上位当選者に同一機関所属者がいない候補者の順に選出し、これら全て同じ条件だった場合はくじ引きにより、選出する。
- (6) 理事選挙において、同一の会員団体からの当選者は最大2人までとする。同一の会員団体からの当選者3人以上の立候補者が上位11位以内の票を獲得し、その2人目と3人目が同数票だった場合は、第5条(5)の定めに基づることとする。
- (7) 監事選挙において、同一の会員団体から複数人が当選することはできないものとする。同一の会員団体から2人以上の立候補者が上位2位以内の票を獲得し、その1人目と2人目が同数票だった場合は、第5条(5)の定めに基づることとする。

変更理由：従来の定めでは、「同一の会員団体からの当選者は最大2人まで」の適用範囲が理事の中で2人までなのか、役員全体で2人までなのかが不明との指摘があったため、理事選挙のみに適用する旨を明記した。また、監事選挙において同一の会員団体からの当選の是非に関する定めがなかったため、(7)として追加した。

第 6 条 選挙の告示の際は、選挙管理委員会において、委員就任後速やかに、選挙スケジュール、立候補の具体的な手順及び必要書類、投票の具体的な手順、その他必要事項を定めた当該年度の選挙実施概要要領を作成し、立候補受け付け開始日までに、J-DESC のウェブサイトを通じて、正会員に告示する。

**変更理由：選挙実施要領の実態に合わせて修正した。**

第 7 条 立候補の受付~~及び開示~~は、以下の手順により行う。

- (1) 役員候補者は正会員団体所属者とし、自薦又は本人の承諾を得た他薦による立候補とする。
- (2) 自薦による立候補は、1) 候補者氏名、2) 候補者所属先、3) 立候補の抱負を記した含む、当該年度の選挙実施要領にて指定された必要書類書面を、期日までに選挙管理委員会に提出する。
- (3) 他薦による立候補は、1) 候補者氏名、2) 候補者所属先、3) 推薦者氏名、4) 推薦者所属先、5) 推薦文を記した書面に、6) 候補者本人の承諾書を添えて、含む、当該年度の選挙実施要領にて指定された必要書類を、期日までに選挙管理委員会に提出する。
- (4) 立候補の受付期間は 1 か月以上設けるものとする。
- ~~(5) 選挙管理委員会は、立候補の受付期間終了後速やかに立候補者名簿を作成し、投票の有無を確定する。→第 8 条に移動~~
- ~~(6) 立候補者名簿及び参考資料は投票用紙と共に正会員に送付し、また、J-DESC のウェブサイトにおいて開示する。~~

**変更理由：具体的な必要書類等はその年の選挙実施要領に記載されるため、その実態に合わせて修正した。**

第 8 条 投票は、以下の手順により行う。

- (1) 選挙管理委員会は、立候補の受付期間終了後速やかに立候補者名簿を作成し、投票の有無を確定する。~~←第 7 条から移動~~
- (2) 無記名投票は、選挙管理委員会の定めた所定の投票用紙~~と封筒~~を用い、定められた期間内に、郵送により行う。~~←第 5 条から移動~~

**変更理由：投票に関する記述が複数の条項に分かれていたため、まとめた。**

第 9 条 開票及び結果の開示は、以下の手順により行う。

- (1) 選挙管理委員会は投票期間終了後、開票立会人の立ち会いのもとで速や

かに開票を行い、当選者を決定する。

- ~~(2) 開票の結果は、立候補者に通知すると共に、ウェブサイトにおいても速やかに開示する。~~
- (2) 選挙管理委員会および開票立会人は、各立候補者の得票数および当落を記した開票結果確認書を作成し、その内容に誤りのないことを全員で確認する。
- (3) 開票結果は、投票権者（正会員団体の代表担当者）及び立候補者に開示する。
- (4) ウェブサイトには、当選者のみを開示する。

変更理由：落選者名や個々の獲得票数を含む詳細な選挙結果について、どこまでを開示対象とするかが明確でなかったため、理事会にて議論のうえ、方針を定めた。

第 9 条 選挙管理委員会は、~~開票結果をウェブサイトにおいて~~開票結果を投票権者及び立候補者に開示した日から 1 週間以上、会員からの異議申し立てを受け付ける期間を設けるものとする。

2 異議申し立てが行われた場合、選挙管理委員会はその内容を確認、調査し、申立人との間で解決を図る。解決されない場合は、当該案件を会員総会（電子メールその他の電磁的方法を含む）に~~付議~~附議し、総会の決議に従うものとする。

第 10 条 選挙管理委員会は、異議申し立て受付期間の後、~~開票の結果及び~~異議申し立てに関する調査結果を含む選挙報告書を作成し、会員総会に報告するものとする。なお、この際の報告は、電子メールその他の電磁的方法により行い、臨時総会の開催に代えることができる。

第 11 条 役員の着任~~は~~は、~~前任の役員が、~~日本地球掘削科学コンソーシアム規約第 15 条 5 に定める任期を終えた時からとする。

~~ただし、理事会において、選挙終了後速やかに新たな役員が着任する必要があると認められた場合は、以下の各号に掲げる場合は、選挙報告書が会員総会に報告された時をもって、新たな役員を着任させることができる。~~

- (1) 役員が任期中に退任し、その後任者を選出する場合
- (2) 候補者が定数に満たなかった等の理由により、定例総会後に再選出が必要になった場合
- (3) 選挙に対する異議申し立てが行われ、当該案件の解決が定例総会の後と

なった場合

(4) 上記の他、新たな役員の着任に緊急を要すると理事会において認められた場合

変更理由：落選者名や個々の獲得票数を含む詳細な選挙結果について、どこまでを開示対象とするかが明確でなかったため、理事会にて議論のうえ追記。

第 12 条 本規則に定めのない事態が起きた場合は、原則として、理事会にて審議のうえ決定する。ただし、選挙管理委員会が必要と判断したときは、理事会の対応案を策定し、~~会員総会にて議決する~~附議するよう求めることができる。

変更理由：第 3 条から移動。また、従来は事案の大小に関わらずすべて会員総会へ附議することとなっていたが、軽微な事案であれば理事会審議のみで決定できることとし、総会への附議は選挙管理委員会が求められるよう追記。

第 13 条 本規則の変更については、理事会にて変更案を決定し、会員総会で承認されることにより、有効となる。

附則

(施行)

1 この規則は、令和元年 5 月 26 日より施行する。

附則

(施行)

1 この規則は、令和 2 年 5 月 19 日より施行する。

## 日本地球掘削科学コンソーシアム 役員

2019 年度	2020 年度
<p>会長： 木村 学 (東京海洋大学)</p> <p>IODP 部会長： 益田 晴恵 (大阪市立大学大学院理学研究科生物地球系専攻)</p> <p>ICDP 部会長： 小村健太郎 (防災科学技術研究所地震津波防災研究部門)</p> <p>理事： 池原 実 (高知大学海洋コア総合研究センター) 木下 正高 (東京大学地震研究所) 清川 昌一 (九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門) 黒田 潤一郎 (東京大学大気海洋研究所) 黒柳 あずみ (東北大学学術資源研究公開センター) 坂口 有人 (山口大学理学部地球圏システム科学科) 島 伸和 (神戸大学) 道林 克禎 (名古屋大学地球環境科学専攻関連講座)</p> <p>監事： 川幡 穂高 (東京大学大気海洋研究所) 森下 知晃 (金沢大学理工研究域地球社会基盤学系)</p>	<p>会長： 川幡 穂高 (東京大学大気海洋研究所)</p> <p>IODP 部会長： 益田 晴恵 (大阪市立大学大学院理学研究科生物地球系専攻)</p> <p>ICDP 部会長： 藤原 治 (産業技術総合研究所地質調査総合センター)</p> <p>理事： 氏家 恒太郎 (筑波大学生命環境系地球進化科学専攻) 木下 正高 (東京大学地震研究所) 清川 昌一 (九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門) 黒田 潤一郎 (東京大学大気海洋研究所) 黒柳 あずみ (東北大学学術資源研究公開センター) 坂口 有人 (山口大学理学部地球圏システム科学科) 島 伸和 (神戸大学) 林 為人 (京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻地球資源学講座) 道林 克禎 (名古屋大学地球環境科学専攻関連講座) 森下 知晃 (金沢大学理工研究域地球社会基盤学系) 諸野 祐樹 (海洋研究開発機構 超先鋭研究開発部門)</p> <p>監事： 海野 進 (金沢大学理工研究域地球社会基盤学系) 小村 健太郎 (防災科学技術研究所地震津波防災研究部門)</p> <p>黒字…再任 赤字…新任</p>

## IODP 部会 執行体制

2019 年度	2020 年度
<p><b>部会長:</b> 益田 晴恵 (大阪市立大学)</p> <p><b>部会長補佐:</b> 木下 正高 (東京大学地震研究所)</p> <p><b>部会執行委員:</b> 狩野 彰宏 (東京大学) 黒田 潤一郎 (東京大学大気海洋研究所) 瀨瀬 佑衣 (名古屋大学) 齋藤 めぐみ (国立科学博物館) 林 為人 (京都大学) 針金 由美子 (産業技術総合研究所) 村山 雅史 (高知大学) 山田 泰広 (海洋研究開発機構) 山中 寿朗 (東京海洋大学) 氏家 恒太郎 (筑波大学) 高澤 栄一 (新潟大学)</p> <p><b>専門部会長:</b> 掘削航海:成瀬 元 (京都大学)</p> <p>科学推進:沖野 郷子 (東京大学大気海洋研究所)</p> <p>科学技術: 機能を IODP 執行委員会へ統合</p>	<p><b>部会長:</b> 益田 晴恵 (大阪市立大学)</p> <p><b>部会長補佐:</b> 部会長の推薦に基づき理事会で選任予定 池原 実 (高知大学) 木下 正高 (東京大学地震研究所)</p> <p><b>部会執行委員:</b> 池原 実 (高知大学) 石橋 純一郎 (九州大学) 北村 真奈美 (産業技術総合研究所) 瀨瀬 佑衣 (名古屋大学) 齋藤 めぐみ (国立科学博物館) 柵山 徹也 (大阪市立大学) 沢田 健 (北海道大学) 中村 恭之 (海洋研究開発機構) 中東 和夫 (東京海洋大学) 針金 由美子 (産業技術総合研究所) 村山 雅史 (高知大学) 山中 寿朗 (東京海洋大学)</p> <p><b>専門部会長:</b> 掘削航海:成瀬 元 (京都大学)</p> <p>科学推進:戸丸 仁 (千葉大学)</p> <p>黒字…再任 赤字…新任</p>



## ICDP 部会 執行体制

2019 年度	2020 年度
<p><b>部会長：</b> 小村健太郎 (防災科学技術研究所)</p> <p><b>部会長補佐：</b> 藤原 治 (産業技術総合研究所)</p> <p><b>部会執行委員：</b> 浅沼 宏 (産業技術総合研究所) 大坪 誠 (産業技術総合研究所) 小野 重明 (海洋研究開発機構海域地震火山部門) 掛川 武 (東北大学大学院理学研究科) 高澤 栄一 (新潟大学大学院自然科学研究科) 佐野 貴司 (国立科学博物館) 中川 毅 (立命館大学総合科学技術研究機構) 林 為人 (京都大学) 矢部 康男 (東北大学大学院理学研究科)</p>	<p><b>部会長：</b> 藤原 治 (産業技術総合研究所)</p> <p><b>部会長補佐：</b> 部会長の推薦に基づき理事会で選任予定 高澤 栄一 (新潟大学)</p> <p><b>部会執行委員：</b> 浅沼 宏 (産業技術総合研究所) 大坪 誠 (産業技術総合研究所) 小野 重明 (海洋研究開発機構) 掛川 武 (東北大学) <b>後藤 和久</b> <b>(東京大学)</b> 佐野 貴司 (国立科学博物館) 高澤 栄一 (新潟大学) 中川 毅 (立命館大学) <b>橋本 善孝</b> <b>(高知大学)</b> 矢部 康男 (東北大学)</p> <p>黒字…再任 赤字…新任</p>

## 専門部会体制

2019 年度	2020 年度
<p><b>掘削航海専門部会</b></p> <p>専門部会長： 成瀬 元 (京都大学)</p> <p>専門部会委員： 池原 実 (高知大学) 石丸 聡子 (熊本大学) 大坪 誠 (産業技術総合研究所) 岡田 誠 (茨城大学) 鈴木 紀毅 (東北大学) 高野 淑識 (海洋研究開発機構) 山田 泰広 (海洋研究開発機構)</p>	<p><b>掘削航海専門部会</b></p> <p>専門部会長： 成瀬 元 (京都大学)</p> <p>専門部会委員： 池原 実 (高知大学) 大坪 誠 (産業技術総合研究所) 鈴木 紀毅 (東北大学) 山田 泰広 (海洋研究開発機構) 井尻 暁 (海洋研究開発機構) 亀尾 浩司 (千葉大学) 草野 有紀 (産業技術総合研究所)</p> <p>黒字…再任 赤字…新任</p>
<p><b>科学推進専門部会</b></p> <p>専門部会長： 沖野 郷子 (東京大学大気海洋研究所)</p> <p>専門部会委員： 東 龍介 (東北大学) 阿部 なつ江 (海洋研究開発機構) 安間 了 (徳島大学) 伊藤 喜宏 (京都大学防災研究所) 岡崎 祐典 (九州大学理学研究院) 白石 史人 (広島大学) 鶴 哲郎 (東京海洋大学) 戸丸 仁 (千葉大学) 林 広樹 (島根大学) 諸野 祐樹 (海洋研究開発機構)</p>	<p><b>科学推進専門部会</b></p> <p>専門部会長： 戸丸 仁 (千葉大学)</p> <p>専門部会委員： 東 龍介 (東北大学) 安間 了 (徳島大学) 白石 史人 (広島大学) 鶴 哲郎 (東京海洋大学) 林 広樹 (島根大学) 望月 公廣 (東京大学地震研究所) 山口 飛鳥 (東京大学大気海洋研究所) 守屋 和佳 (早稲田大学) 針金 由美子 (産業技術総合研究所) 井尻 暁 (海洋研究開発機構) 鈴木 庸平 (東京大学)</p> <p>黒字…再任 赤字…新任</p>
<p><b>科学技術専門部会</b></p> <p>機能を IODP 執行委員会へ統合</p>	

2020 年 5 月 19 日

## 日本地球掘削科学コンソーシアム 2020 年度活動方針（案）

日本地球掘削科学コンソーシアム理事会

日本地球掘削科学コンソーシアムの基本的活動を維持発展させ、国際深海科学掘削計画（IODP）Science Framework、国際陸上科学掘削計画（ICDP）Science Plan の策定をはじめとした国内外の情勢変化に対応した、柔軟かつ戦略的な活動を行う。

理事会の開催
J-DESC 規約に従い、必要に応じて理事会を適宜開催し、重要事項の審議・決定を行う。
総務関連
J-DESC の組織運営に関する検討
2018 年度の改組で発足した新体制を引き継ぎ、安定的・効率的な組織運営を行うとともに、規約の整理や見直しにより組織の改革・最適化を進める。
J-DESC の活動活性化に関する検討
会員へのサービスや組織の活性化に資する効果的な活動を維持・推進するとともに、新会員獲得のための方策を検討する。
科学戦略関連
地球掘削科学の振興と日本の研究提案力の強化
IODP や ICDP の将来計画において、世界をリードする日本の方針を打ち出す。また、それを支える健全で活力ある科学コミュニティを維持・拡大する。新たな科学アイデアの発掘・育成や、新規掘削提案の作成・強化する支援を実施する。これらの目的に合致する集会・シンポジウム等を積極的に企画する。国際連携を意識し、日本地球惑星科学連合 2020 年大会で「地球掘削科学」セッションを開催し、2021 年大会のセッション提案を行う。
財務関連
年度予算の策定・運用
J-DESC の財政及び活動予定を踏まえ、適切な年度予算を策定し、限られた予算の効果的な運用を行うとともに、収入を維持・拡大するために必要な施策を提案する。
会員提案型活動経費の運用
提案課題の適正な審査・採択・予算配分により、会員提案型活動経費を効果的に運用し、

J-DESC の目的・活動に合致する各種会員活動を活性化させる。
<b>外務関連</b>
<b>地球掘削科学に関する国際プロジェクトへの支援及び協力</b>
IODP/ICDP 等における対外的な活動として、掘削プロジェクトや国際ワークショップへの研究者の派遣、国際委員の推薦・派遣、各種情報収集と研究者コミュニティへの展開、国内外コミュニティの交流・連携促進等を行う。IODP/ICDP の将来計画に向けた対外的な活動を積極的に行う。 国内外の情勢を分析し、積極的・効果的にコミュニティへ情報展開を行う。
<b>広報・教育関連</b>
<b>コミュニティの持続的な発展・拡大を目指す戦略的な広報・教育活動</b>
各種普及・広報・教育活動を継続展開するとともに、新規活動を創出・企画する。会員機関の相互連携による研究教育資源の有効活用を進める。 2019 年度に実現した経験をさらに前へ進め、従来実施してきた広報・教育活動に加え、以下の事項を強化する。 ・会員機関が提供する研究教育プログラムを大学が単位として認定する仕組みを展開・拡充 ・スクールやワークショップ等による若手育成・研究コミュニティの底辺拡大 ・各種メディアを活用した国内外への普及・広報活動 ・COVID19 を契機とした教育のデジタル化にマッチした情報発信、および実際に体験する実習等の価値の発信

2020 年 5 月 19 日

## 日本地球掘削科学コンソーシアム IODP 部会 2020 年度活動方針（案）

IODP 部会執行委員会

J-DESC 理事会・ICDP 部会と連携し、IODP 部会の基本的活動を維持発展しつつ、国際深海科学掘削計画（IODP）Science Framework をはじめとした国内外の情勢変化に対応した、新規活動を創出・企画する。

執行委員会の開催
IODP 部会規則に従い、必要に応じて執行委員会を適宜開催し、重要事項の検討を行い、理事会に報告する。
科学戦略関連
<p>健全で活力ある科学コミュニティの維持・拡大のために、以下を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門部会を活用し、IODP 乗船応募者を拡大するための方策（ウェビナーの開催等）を実施する。</li> <li>・ SCORE 教育乗船枠の実現に向け新たな制度を提案する。</li> </ul> <p>新たな科学アイデアの発掘・育成や、新規掘削提案の作成・強化支援のために、以下を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門部会を活用し、提出前の新規掘削提案の支援により、日本発の掘削提案の実現を強力に進める。</li> <li>・ J-DESC 会員をはじめとする国内研究者コミュニティに対する SCORE の周知活動を強化し、SCORE への掘削提案を奨励する。</li> <li>・ ICDP 部会と協力し、国内学会等へのブース出展において、IODP や SCORE への掘削提案方法や参加方法に関する相談窓口を設置し、コミュニティからの質問・相談等を受け付ける。</li> </ul> <p>これらの目的に合致する集会・シンポジウム等を積極的に企画・提案・実施する。</p> <p>国際連携を意識し、日本地球惑星科学連合 2020 年大会で「地球掘削科学」セッションを開催し、2021 年大会のセッション提案を行う。</p> <p>また、IODP Science Framework の日本版概要を作成する。</p>
財務関連
IODP 部会の活動予定を踏まえ、限られた予算の効果的な運用を行う。 会員提案型活動経費の審査に協力する。

**外務関連**

IODP における対外的な活動として、以下を行う。

- ・ 専門部会を活用し、IODP 航海への乗船研究者の応募受付・評価・推薦を行う。
- ・ IODP 国際パネル・委員会等への日本からの委員の公募・選定・推薦および会議への派遣を行う。
- ・ IODP Forum 会議および各掘削船の運用委員会 (Facility Board) 会議へ出席し、IODP の国際情勢について会員とのタイムリーな情報共有を行う。
- ・ タウンホールミーティング等、国内外コミュニティの交流・連携促進イベントの企画検討を行う。

**広報・教育関連**

各種普及・広報・教育活動を継続展開するとともに、新規活動を創出・企画する。会員機関の相互連携による研究教育資源の有効活用を進める。

2019 年度に実現した経験をさらに前へ進め、従来実施してきた広報・教育活動に加え、以下の事項を強化する。

- ・ 会員機関が提供する研究教育プログラムを大学が単位として認定する仕組みを展開・拡充
- ・ ワークショップ等による若手育成・研究コミュニティの底辺拡大
- ・ J-DESC コアスクールの実施の企画検討
- ・ COVID19 を契機とした教育のデジタル化にマッチした情報発信のコンテンツ検討

上記全ての活動において、COVID19 影響のもとで可能な活動の効果的・効率的な実施を追求する。

2020 年 5 月 19 日

## 日本地球掘削科学コンソーシアム ICDP 部会 2020 年度活動方針（案）

ICDP 部会

J-DESC 理事会・IODP 部会と連携し、ICDP 部会の基本的活動を継承しつつ、ICDP Science Plan の策定など国内外の情勢変化に柔軟に対応した活動を創出・企画する。

執行委員会の開催・総務関連
ICDP 部会規約に従い、必要に応じて執行委員会を適宜開催し、重要事項を検討・実施し、理事会に報告する。
科学戦略関連
掘削科学の活性化に資する活動
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップ等を利用した新たな科学アイデアの発掘・育成による、日本発の ICDP プロジェクト実現に向けた支援</li> <li>・次期ICDPサイエンスプラン策定に伴って、日本の特性をいかした方針・提言を発信する。</li> <li>・ICDP プロジェクト、陸上科学掘削プロジェクトへの日本からの研究者参加の支援</li> <li>・日本からの研究者の ICDP 関連成果の取りまとめと広報</li> </ul>
集会・シンポジウム後援・開催等
IODP・ICDP 関連ワークショップの開催
日本地球惑星科学連合 2020 年大会にて「地球掘削科学」セッションの開催
財務関連
年度予算の策定・運用
ICDP 部会の活動予定を踏まえ、適切な年度予算を策定し、限られた予算の効果的な運用を行う。
会員提案型活動経費の運用
会員提案型活動経費への募集・選定・採択を適正に行い、各種会員活動を活性化させる。
外務関連
ICDP に関わる対外的な活動および支援
ICDP の Assembly of Governors (AOG), Executive Committee (EC), Science Evaluation Group (SAG) の各会議へ出席し、ICDP の国際情勢について情報共有を行うとともに、情報を分析して J-DESC の活動に反映。

SAG 等の ICDP 国際委員候補者の戦略的な検討を行う。
国内外コミュニティの交流・連携促進
J-DESC タウンホールミーティング等のコミュニティの交流促進イベントの検討
広報・教育関連
新規活動の創出・企画の検討
2019 年度に開始した会員機関の相互連携による研究教育資源の有効活用（単位認定制度）の推進
学会等における広報活動
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本地球惑星科学連合 2020 年大会にて出展</li> <li>・日本地質学会第 127 年学術大会（名古屋大会）にて合同展示ブースを出展</li> <li>・日本地震学会 2020 年度秋季大会（沖縄）にて合同展示ブースを出展</li> <li>・その他、会員の協力により随時活動</li> </ul>
若手育成・研究コミュニティの底辺拡大
<ul style="list-style-type: none"> <li>・J-DESC コアスクール（岩石記載技術コース）の実施</li> <li>・海外コアスクールや国際研究集会等への若手研究者や学生の派遣の促進</li> <li>・開催するワークショップや研究集会等における若手参加支援</li> </ul>
出版物等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・J-DESC Newsletter vol. 13（日本語）電子版発行（2020 年 5 月）</li> <li>・J-DESC Newsletter vol. 14（日本語）電子版の発行に向けた原稿準備</li> <li>・J-DESC リーフレットの適宜更新・配布促進</li> <li>・その他、J-DESC の目的・活動に合致するものを適宜実施</li> </ul>
その他普及活動・アウトリーチ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・メールニュース「J-DESC Update」による各種最新情報の提供</li> <li>・J-DESC ホームページ及び Facebook ページの効果的活用</li> <li>・関係機関によるプレスリリースへの協力及び推進</li> <li>・その他、ICDP 部会の目的・活動に合致するものを適宜実施</li> </ul> <p>上記全ての活動において、COVID19 影響のもとで可能な活動の効果的・効率的な実施を追求する。</p>



## 日本地球掘削科学コンソーシアム2020年度予算（案）

（単位：円）

科 目	2019年度		2020年度	備 考
	予算額	決算額	予算案	
<b>【収入の部】</b>				
年会費	4,174,000	4,231,000	3,961,000	昨年比213,000円減
正会員	3,050,000		3,040,000	
正会員A	2,300,000	2,200,000	2,200,000	100,000円×22団体
正会員B	750,000	810,000	840,000	30,000円×28団体
個人会員	24,000	21,000	21,000	3,000円×7名
賛助会員	1,100,000	1,200,000	900,000	100,000円×7団体 200,000円×1団体
雑収入	0	59	0	
<b>当期収入合計</b>	<b>4,174,000</b>	<b>4,231,059</b>	<b>3,961,000</b>	
前年度繰越金	8,495,858	8,495,858	9,887,940	
<b>収入合計</b>	<b>12,669,858</b>	<b>12,726,917</b>	<b>13,848,940</b>	
<b>【支出の部】</b>				
<b>1 共通経費</b>	<b>3,592,312</b>	<b>2,176,147</b>	<b>4,083,132</b>	
会員提案型活動経費	300,000	155,385	300,000	
広報活動費	684,012	615,345	378,132	
コアスクール開催費	1,255,000	516,357	1,355,000	
会議開催費	198,300	50,760	60,000	
通信費	30,000	8,634	30,000	
雑費	70,000	64,568	70,000	
謝金	0	0	60,000	
事務局業務委託費	525,000	498,144	525,000	
事務局会計業務費	30,000	25,040	5,000	
掘削科学計画・提案支援費	500,000	241,914	300,000	
Science framework対応・特別出版費			1,000,000	Science framework出版費 (日・英版)
<b>2 理事会活動経費</b>	<b>510,000</b>	<b>354,798</b>	<b>510,000</b>	
理事会活動経費	500,000	341,950	500,000	
雑費	10,000	12,848	10,000	
<b>3 IODP部会経費</b>	<b>390,000</b>	<b>162,390</b>	<b>378,200</b>	
執行部会活動経費	360,000	157,580	358,200	
雑費	30,000	4,810	20,000	
<b>4 ICDP経費</b>	<b>270,000</b>	<b>145,642</b>	<b>277,000</b>	
執行部会活動経費	260,000	139,240	270,000	
雑費	10,000	6,402	7,000	
<b>当期支出合計</b>	<b>4,762,312</b>	<b>2,838,977</b>	<b>5,248,332</b>	
当期収支差額	-588,312	1,392,082	-1,287,332	
前期繰越収支差額	8,495,858	8,495,858	9,887,940	
次年度繰越金（見込）	7,907,546	9,887,940	8,600,608	予備費
<b>支出合計</b>	<b>12,669,858</b>	<b>12,726,917</b>	<b>13,848,940</b>	

## 日本地球掘削科学コンソーシアム会員リスト（令和2年5月現在）

正会員：50 賛助会員：8 個人会員：7

No.	会員機関名（正会員）
1	秋田大学 国際資源学部
2	茨城大学 理学部
3	宇都宮大学 農学部 地質学研究室／工学部 岩盤工学研究室
4	愛媛大学 理学部 地球科学科
5	大阪市立大学 大学院理学研究科 生物地球系専攻
6	大阪大学 大学院理学研究科 宇宙地球科学専攻
7	岡山大学 理学部 地球科学科
8	岡山理科大学 理学部 応用物理学科
9	海洋研究開発機構 海域地震火山部門
10	海洋研究開発機構 海洋機能利用部門
11	海洋研究開発機構 超先鋭研究開発部門
12	鹿児島大学 大学院理工学研究科 地球環境科学専攻
13	金沢大学 理工研究域地球社会基盤学系
14	北見工業大学 環境・エネルギー研究推進センター
15	九州大学 大学院理学研究院 地球惑星科学部門
16	九州大学 大学院工学研究院 地球資源システム工学部門
17	九州大学 大学院比較社会文化研究院 地球変動講座
18	京都大学防災研究所 地震防災研究部門
19	京都大学 大学院工学研究科 都市社会工学専攻 地球資源学講座
20	京都大学 大学院理学研究科 地球惑星科学専攻
21	熊本大学 理学部 地球科学科
22	高知大学 海洋コア総合研究センター
23	神戸大学
24	国立科学博物館
25	国立極地研究所 地圏研究グループ
26	産業技術総合研究所 地質調査総合センター
27	島根大学 総合理工学部 地球科学科
28	信州大学 理学部
29	千葉大学 大学院理学研究院 地球科学研究部門
30	筑波大学 生命環境系地球進化科学専攻
31	東海大学 海洋学部
32	東京海洋大学 海洋資源環境学部
33	同志社大学 理工学部 環境システム学科
34	東京大学地震研究所
35	東京大学 大学院理学系研究科
36	東京大学大気海洋研究所
37	東北大学 大学院環境科学研究科

38	東北大学 大学院理学研究科／学術資源研究公開センター
39	徳島大学 環境防災センター
40	富山大学 大学院理工学研究部(理学) 生物圏環境科学科 環境化学計測第2講座
41	富山大学 都市デザイン学部 地球システム科学科
42	名古屋大学 地球環境科学専攻関連講座／地震火山研究センター／ 宇宙地球環境研究所／名古屋大学博物館
43	新潟大学 理学部／大学院自然科学研究科
44	兵庫県立大学 大学院生命理学研究科 地球科学講座
45	広島大学 大学院 先進理工系科学研究科
46	防災科学技術研究所 地震津波防災研究部門
47	北海道大学 大学院理学・地球環境科学研究院
48	山形大学 理学部 地球科学コース
49	山口大学 理学部 地球システム圏科学科
50	琉球大学 理学部
No.	会員機関名 (賛助会員)
1	エスケイエンジニアリング株式会社
2	株式会社エヌエルシー
3	株式会社クリステンセン・マイカイ
4	JX金属探開株式会社
5	シュルンベルジェ株式会社
6	日鉄鉱コンサルタント株式会社
7	ハリバートン・オーバーシイズ・リミテッド
8	株式会社マリン・ワーク・ジャパン